

平成27年度 胎内市学校保健部 活動報告

部長 古川 幸子

1 研究主題

心身共に健康な児童の育成

2 研究の概要

- (1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場：中条小学校
- (2) 第2回部会 「胎内市教育委員会担当者との連絡会」
「学校保健統計資料集作成作業・研修会準備」 会場：黒川庁舎
- (3) 第3回部会 「講演会」 会場：胎内市産業文化会館

3 研究の実際

○第2回部会

- ・ 胎内市教育委員会 森田 陽平 様をお迎えし、学校保健に関する意見交換を行った。その後、統計班と研修班に分かれ、胎内市学校保健統計資料編集作業と10月の研修会の準備を行った。

○第3回部会

- ・ 講師に新潟青陵大学大学院准教授 伊藤 真理子 様をお招きして、「児童生徒に対する心理療法～保健室でのかわりの中で～」をテーマに「保健室で使える心理療法エッセンス」という内容の講義をお聞きした。その後、小グループに分かれ、演習としてカラージュ体験を行い、非言語的な表現に対する留意点についてご指導いただいた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 胎内市教育委員会との連絡会では、学校保健に関する意見交換会を行うことで、行政・学校間で当市が抱える学校保健に関する課題が共通理解でき、執務の効率化を図る上でとても有意義であった。また、来年度から一部改正される児童生徒等の健康診断の実施にむけての対策を共通理解し、確実に準備を進めることができた。
- ・ 「胎内市学校保健統計資料集」を例年通り発行できた。行政・学校医等・学校間で当市の児童生徒の健康課題について共通理解することにつながった。
- ・ 講師の先生を招いての研修会では、児童生徒の発達段階を踏まえた多面的なアプローチの仕方を学んだ。非言語的な表現に目を向けることの大切さを再認識できた。また、非言語的な表現に関しての留意点等を演習を通して確認することができた。個々の力量を高める上で、とても有意義な研修会であった。

(2) 課題

- ・ 子どもたちにとって個々が抱える課題を言葉にして表現することは難しい。ゆえに養護教諭として非言語的な表現に目を向けて対応することや身体的ケアが心理的ケアにつながっていることを意識しながら対応することを通して、子どもたちの課題解決を目指すことが今後の課題である。